



地域日本語支援ニュース こだま 第 351 号

2018.12.13



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる：静岡県から■

日頃の交流から、非常時の情報伝達・コミュニケーションへ  
—公益社団法人日本語教育学会秋季大会レポート—

2■ [外国につながる高校生の交流会] のお知らせ

=====

1■ともに生きる：静岡県から■

2018 年 11 月 24 日（土）・25 日（日）、静岡県の沼津プラザヴェルデにて公益社団法人日本語教育学会の秋季大会が行われ、日本語教育の研究や実践に携わる約 700 人が集いました。二日間にわたる多彩な研究発表のあいだに織り込まれた、地域社会の外国人との共生をめぐるプログラムが、参加者の関心を集めました。今回はそのレポートをお届けします。

.....

日頃の交流から、非常時の情報伝達・コミュニケーションへ  
—公益社団法人日本語教育学会秋季大会レポート—

◆ともに立ち向かう

初日の一般公開プログラム「外国人住民と共に考える安心安全な町づくりー日本語教育から見たリスク・コミュニケーション」は、地震・台風・集中豪雨などの自然災害時の情報伝達、意思疎通について考える場となりました。

視覚障害者のニーズを言葉によらず伝えるグッズ、方言の地域差による非常

時の困難の乗り越え方、避難所運営ゲームによる防災啓発、通常の伝達手段が絶たれた場合の発信方法、など、日本人も外国人も地域住民として共に備えをしていくための示唆に富む提案がいくつもありました。

言葉の問題に限らず、日系ブラジル人からは、被災者をバンド演奏で励まそうとしたとき、日本人からは悲しいときは静かにしていいたいという反応が返ってきたこと、それでも、せっかくだからと受け入れてもらえたというエピソードで、文化による気持ちの伝え方、伝わり方の違いも語られました。

#### ◆静岡県内のさまざまな取り組み

翌日には、＜地域発信企画 in 静岡＞として、沼津市、富士市、磐田市、三島市、また、静岡県など6団体から、その実践や活動の紹介がありました。「地震」をテーマにした学習、災害時に備える「やさしい日本語」の普及、ブラジル人学校の児童・生徒の防災意識の向上、専門家を招いての体験型の防災講座など、さまざまな取り組みがなされています。その中のひとつ、「ふじのくに多文化共生ネット」の取り組みでは、災害など特別なことが起こってから急に日本人と外国人が助け合おうとしても戸惑いが多いので、日頃から交流することを重視しています。

#### ◆“プチウォーク NUMAZU 再発見！”

沼津市は、浜松市や磐田市などに比べると在住外国人の比率が低く、日本人が外国人に接する機会も少ないそうです。それでも最近では、毎年日本人が減り、外国人が増える傾向にあります。お互いが知り合う場を積極的に設けるため、「ふじのくに多文化共生ネット」では平成 29・30 年に“プチウォーク NUMAZU 再発見！”を実施、外国人はお客様という意識ではなく、はじめから日本人と一緒に企画し、やさしい日本語・ふつうの日本語・英語・ポルトガル語で広報を行って参加者を募りました。興味のある日本人が来て、知り合いの外国人に声をかけ、その外国人がまた同国人を連れてきて……という風に広がり、実行の日となります。

#### ◆ともに暮らす実感

日本人と外国人、そして「ふじのくに多文化共生ネット」からも人が出て、3、4人ずつグループになり、本部を出発します。地図や飲み物も自分たちで用

意し、町歩きの中で、おもしろいものや不可解なものを発見したら、写真を撮ったり、質問したり、調べたりして、その情報をメールで本部に送ります。本部ではスタッフが送られてきた画像や情報をリアルタイムで整理しています。町歩きのグループは途中、3, 4人で相談して、居酒屋ランチありコンビニ弁当あり、思い思いの昼食をとります。制限時間内に本部に戻ると、スタッフが整理していたものを使って、最終的には、見聞きした事柄についてグループごとに発表しました。

参加した日本人からは、「たのしかった」「外国人とともに暮らしているという実感が持てた」「外国人にとって日本語は難しいとわかった」などの感想が聞かれ、外国人住民への理解が深まったことがうかがわれます。また、こうした活動を通して、将来、コミュニティのリーダーとなる外国人の人材を発掘することも活動目的のひとつです。

両日にわたったいずれのプログラムも、全国から集まった方々で用意された椅子が足りなくなるほどの賑わいを見せ、各地域で外国人住民との共生を進めていこうという熱気が高まっていることが感じられました。

(公益社団法人 国際日本語普及協会 水野晴美)

---